

—土呂部の里山風景と草原植物を守る—
土呂部の草原 再生プロジェクト



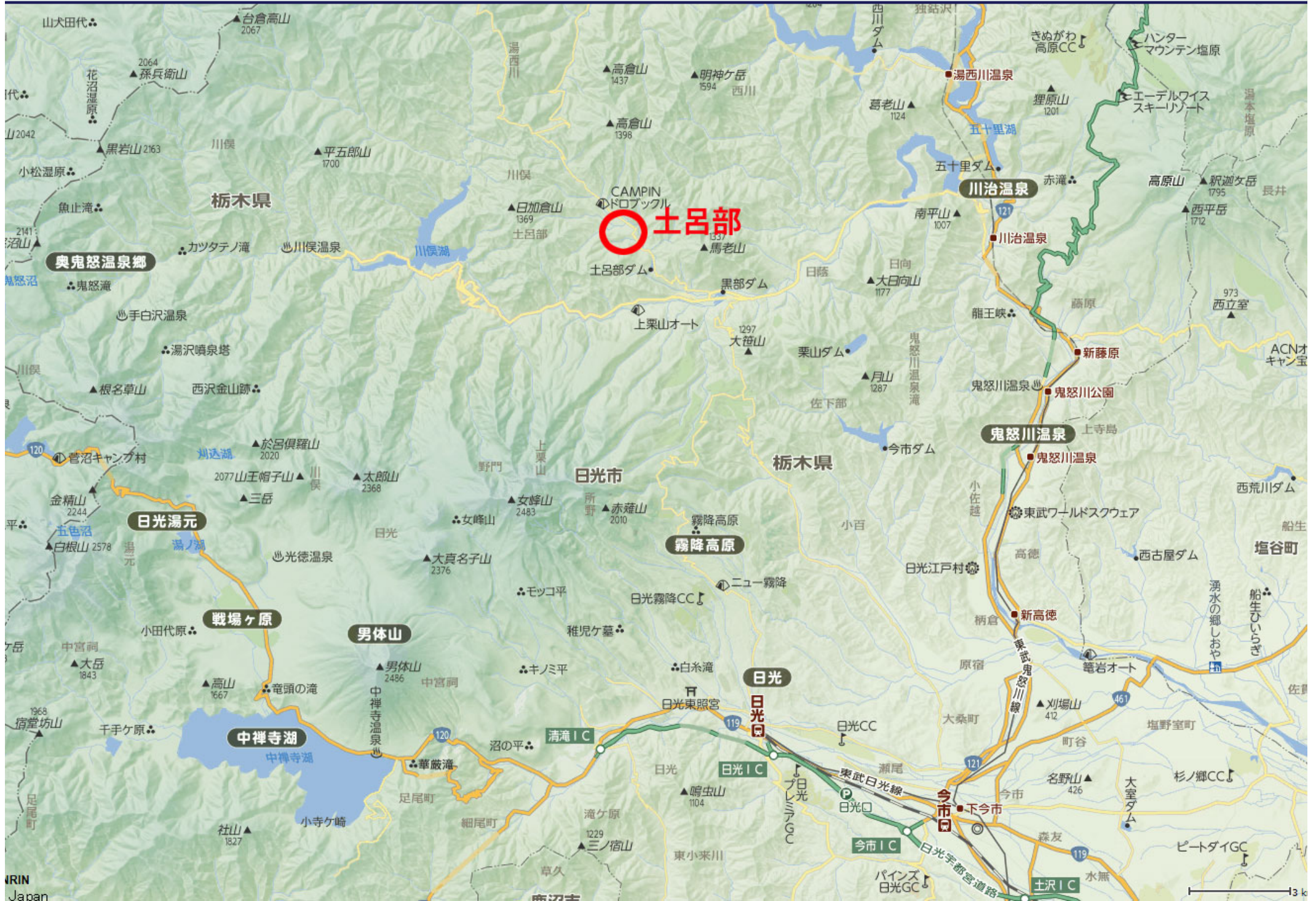
2017.3.14

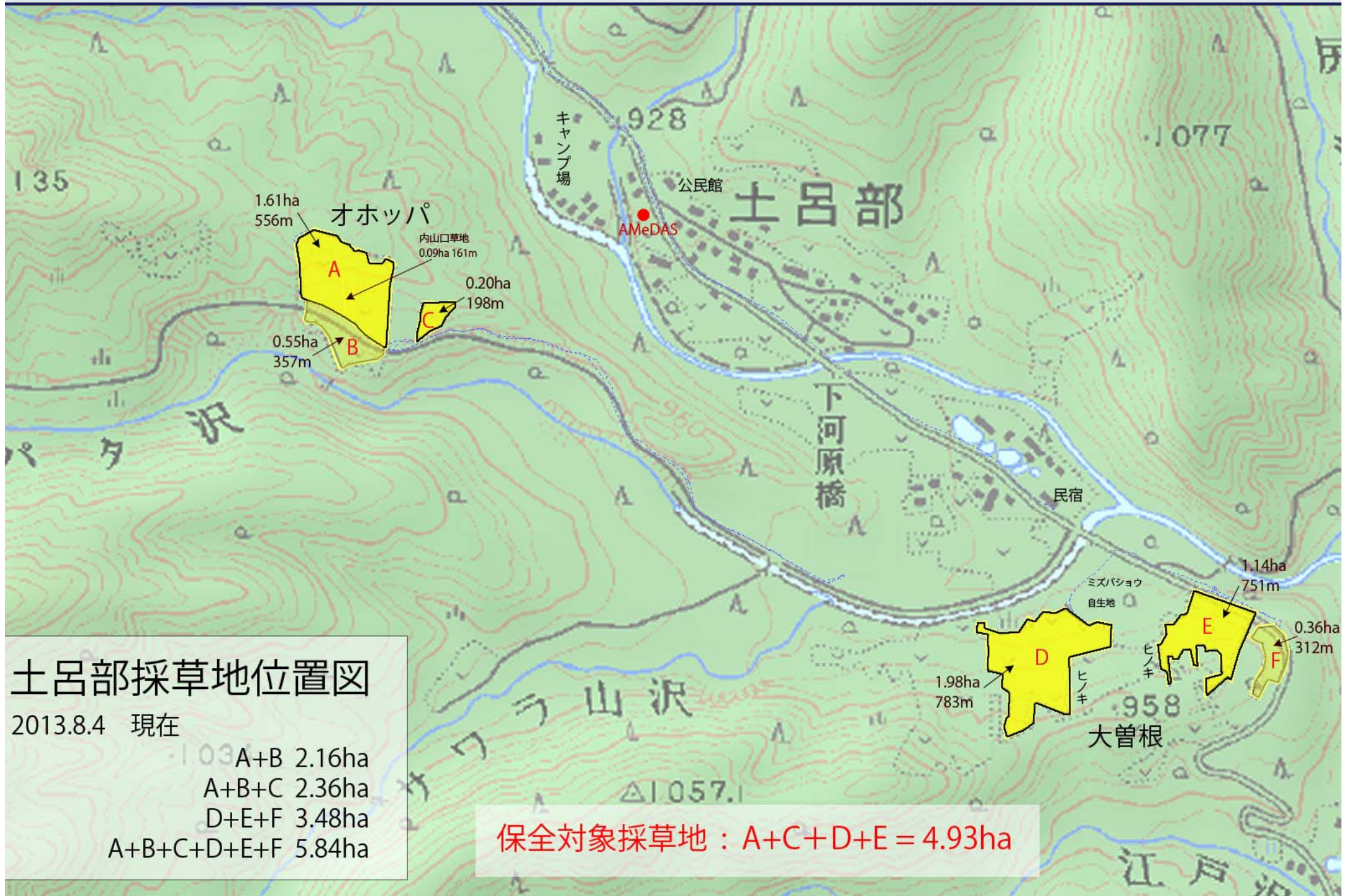
日光茅ボッチの会





土呂部の概要







土呂部集落



茅場
(=カッパ =採草地 =草原)

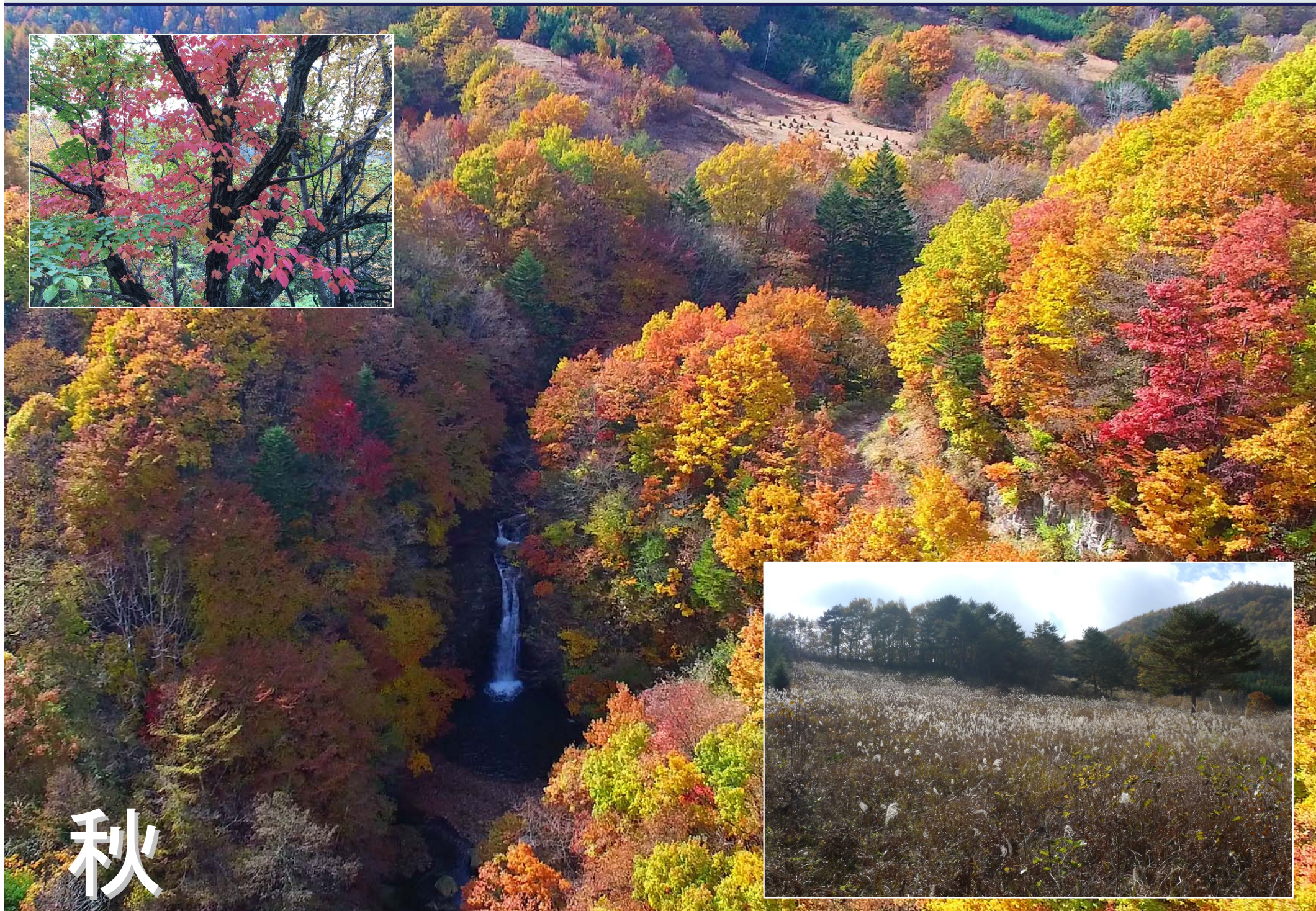
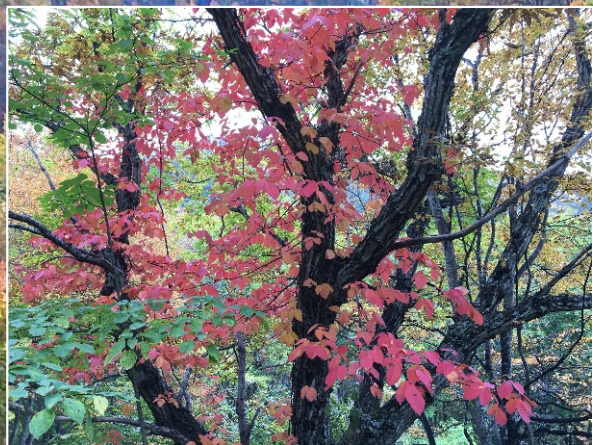




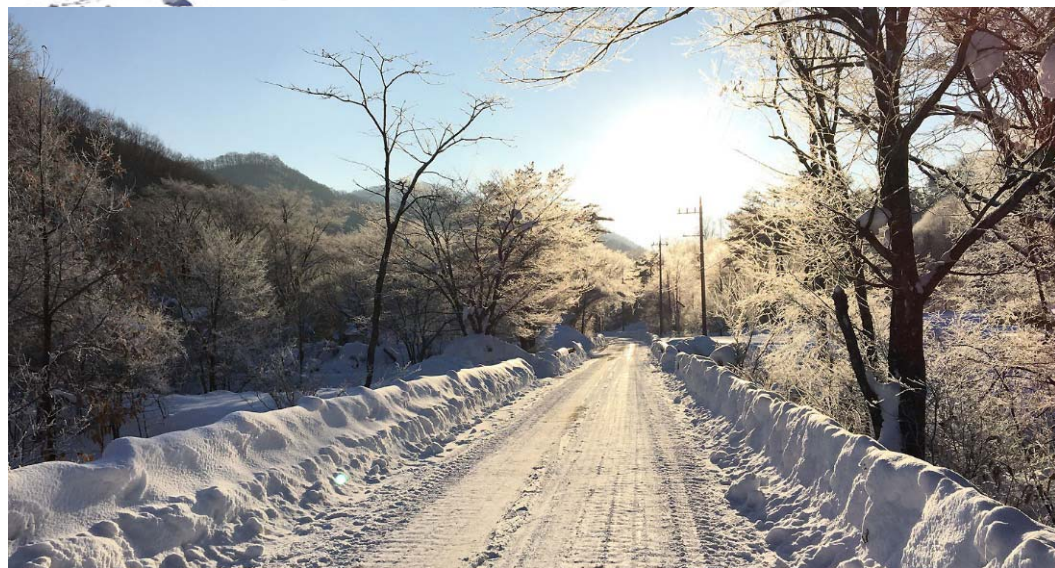
春

夏

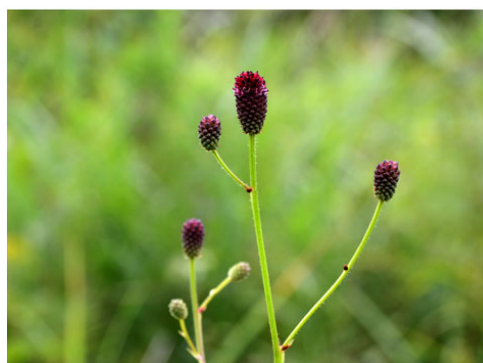
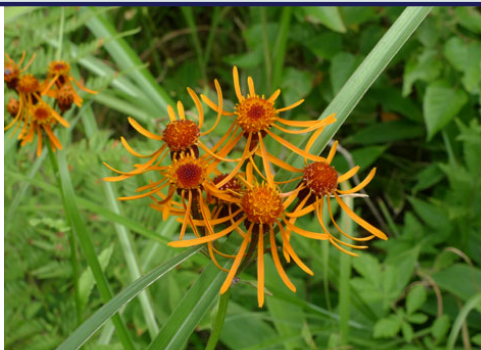




秋



たくさんの草原性の草花が咲く



土呂部の
絶滅危惧種



スズサイコ



オカオグルマ



キセワタ



ムラサキ



コウリンカ



フナバラソウ



ヤマトキシソウ



草原性動物



生物多様性に富んだ、希少動植物の宝庫

土呂部草原の魅力



県内最後のミズバショウ自生地

とちぎのふるさと田園風景百選

— 茅ボッチのある風景 —

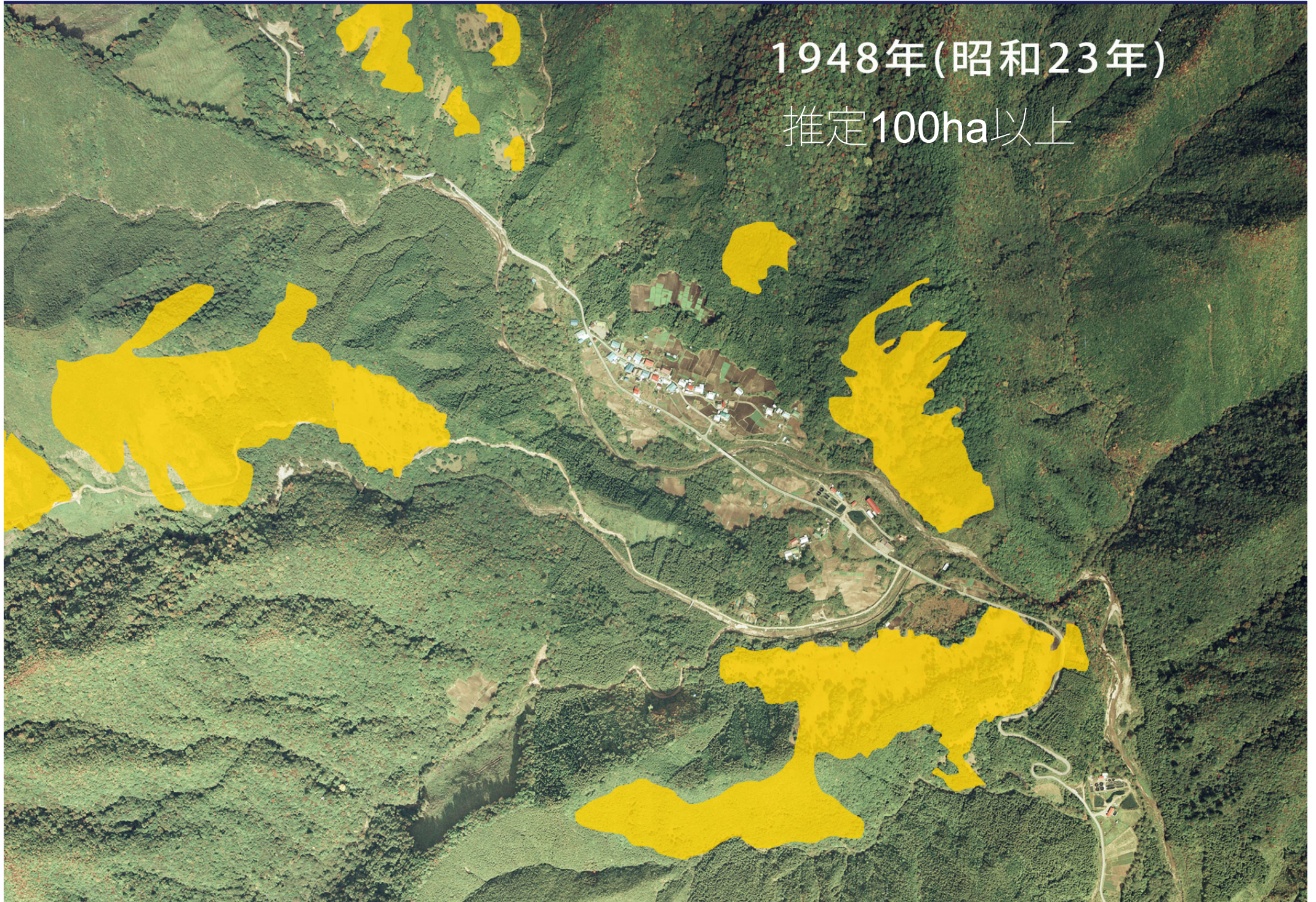


日光フォトコンテスト 入賞作品



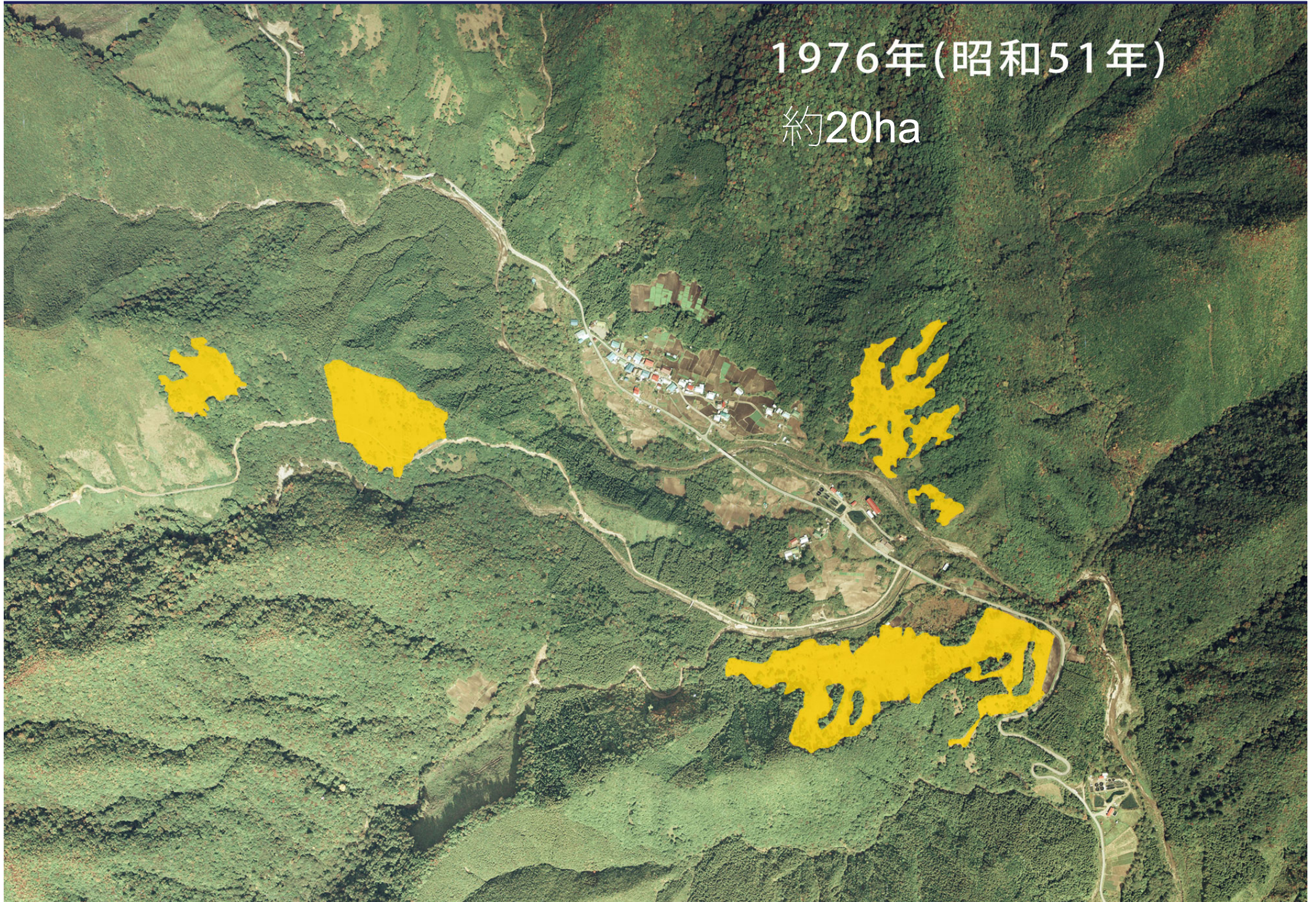


乾燥した茅ボッチは冬期間
の牛の敷草と飼料に



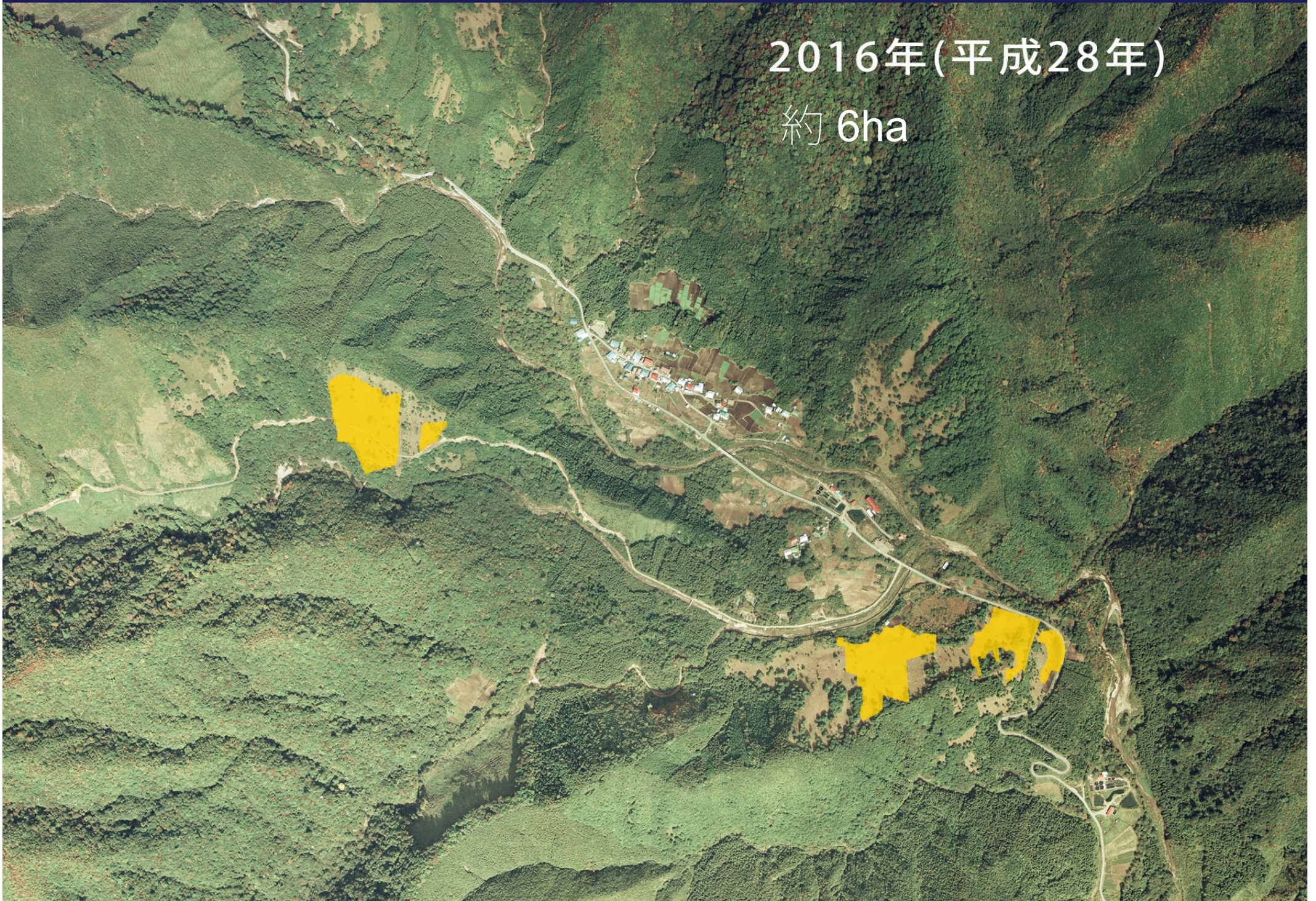
1948年(昭和23年)

推定100ha以上



1976年(昭和51年)

約20ha



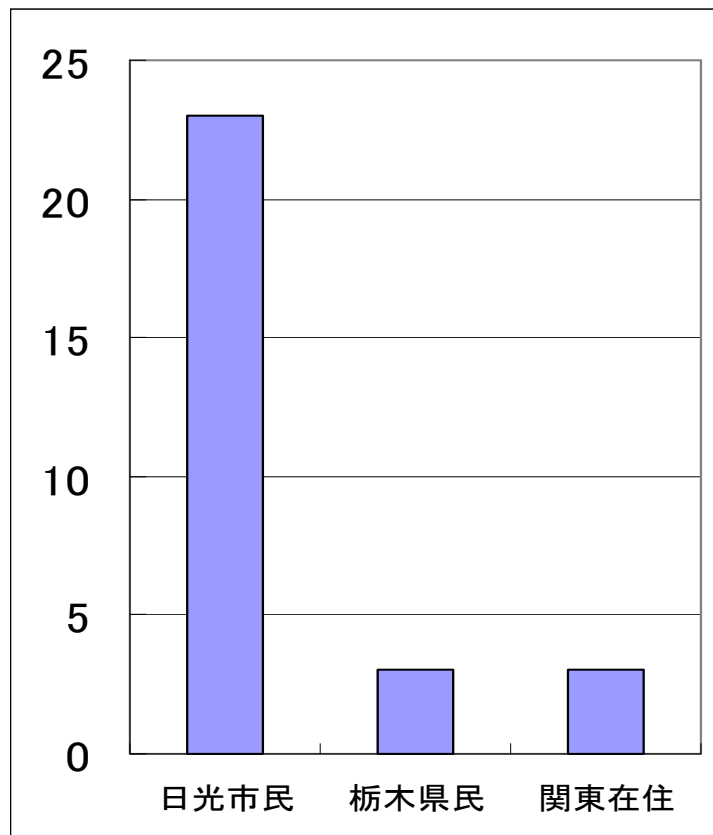
2016年(平成28年)

約 6ha

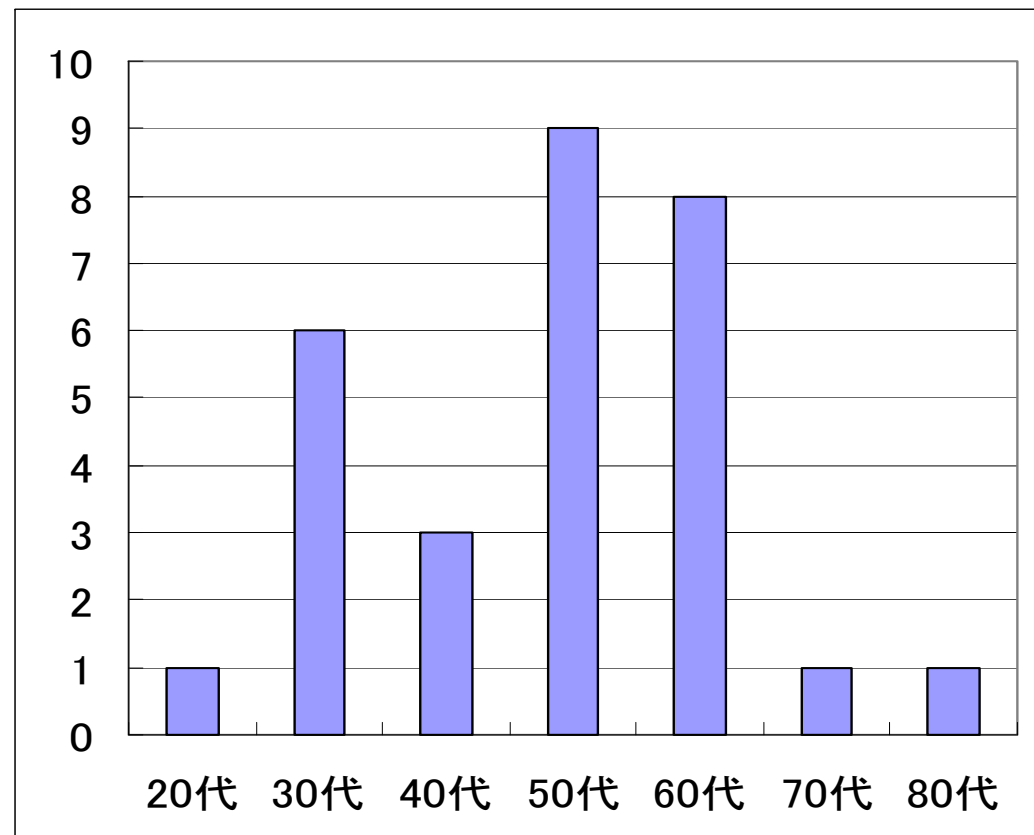
—土呂部の里山風景と草原植物を守る—

日光茅ボッチの会 2013年(H25年)11月 発足

居住地別 会員数



世代別 会員数 計29名



活動の目的(目指す方向)

- 野生の多様な草原性植物の花が咲く環境の保全と再生

希少な自然環境の保全と再生

- 茅ボッチのある山村里山風景の継承

里山景観の継承

行動

地域住民との協働

都市住民との交流

他活動団体の交流

- 定期的な草刈り、茅ボッチづくり、獣害対策
- 自然観察会、体験プログラムの開催、歩道整備
- ブログやSNSによる魅力発信

日光の新たな魅力ある拠点

地域活性化
地域振興

保全活動

日光茅ボッチの会の活動









イベント／啓発・普及



日光茅ボッチの会の活動







• 活動状況

(平成28年度見込み・のべ日数人数)

	のべ日数 (日)	のべ人数 (人)
調査研究	11	109
保全活動	40	146
イベント	9	177
啓発・普及	10	83
会議	2	18
その他	20	37
合計	92	570

• 草原保全面積

	2013年度 (発足前)	2016年度
草刈り ・低木伐採面積(a)	45	226
内茅ボッチ面積(a)	45	71
獣害保全面積(a)	87	857
歩道延長(m)	0	1,878

- 引き続き、草原環境の保全活動と、茅ボッチづくりを魅力ある一般参加型イベントを組み合わせながら継続
 - 草原と里山の魅力をわかりやすく伝える
 - 理解者・賛同者を増やす→後継者につながるかも
- 今後の目標
 - 短期的に（1～3年）
 - 観察路の整備
 - 森林化が進行したエリアの伐採→草原の復元
 - 土呂部産メープルシロップ商品化
 - イベントの定着化
 - 中期的に（4～9年）
 - 自然観察フィールドとして草原を開放
 - 後継者育成
 - 長期的に（10年～）
 - 草原の土地取得（ナショナルトラストの手法で）

- 保全活動の課題
 - 後継者の確保
 - 活動の趣旨を理解するメンバーの育成
 - 近い将来、メンバーの高齢化にどう対処するか
 - 土地の担保
 - 個人有の土地をいつまで保全していけるのか
 - 土地を取得し保全を担保できるのか
 - 地元の理解
 - 個人有の土地を保全することへの理解・相続後の不安
 - ヒノキ、スギ林への根強い信仰
 - 行政の理解
 - 草原環境の保全に対する行政の理解不足
 - 作業労働力の確保
 - 森林化の進行に作業が追いつかない。

- アドバイスをいただきたいこと
 - 人工林化された草原の復元(2000年頃ヒノキを植栽)
 - 技術的な課題は？
 - 土地所有者へのフォローは？
 - 植生復元の可能性は？
 - 保全地の所有権取得
 - 取得の手法と財源は？
 - 行政の理想的な関わり方とは？

日光茅ボッチの会